

第9回「ながやま子どもの水辺協議会」が去る9月20日(木)、川のふるさと交流館「さらら」2階多目的研修室において開催されました。

## 主な意見交換

意見交換では、魅力ある川づくり、拠点施設の多様な利用、地域協働など、様々なテーマで意見が交わされました。



座長を務める加藤氏

### 水辺づくり箇所の施設整備について

- 今年度も水辺づくりを進めていますが、「さらら」から水辺まで移動する際に、現状では遊歩道を通らずに、堤体上を歩く人がほとんどです。遊歩道は遠回り、堤体上の方がはるかに近道であることが考えられます。法面の維持管理の面からも、好ましい状況ではありません。そこで、水辺の真上から、堤体上をまっすぐに昇降できる階段があるといいと思います。階段の形状は、カヌーやいかだを運びやすいように、階段中央は芝とし、その両脇に階段を設置して、芝の上にカヌーを滑らせるようなものが良いと思います。
- 水辺の維持管理については、イベント時に清掃などを手伝ってもらうのが良いかと思えます。PTAや「オヤジの会」などに呼びかけるのが良いでしょう。
- 水辺周辺に“よどみ”がありますね。川の水が停滞している箇所なのですが、うまくきれいな状態に保てる方法の検討が必要だと思います。
- いかだの乗り場の設置も検討したいと思います。

### さらら館の施設利用について

- さらら館を利用した取組みを今年度も実施しましたが、他になにか子どもの教育活動等がありましたら、ご意見ください。
- 昔の子どもの遊びで、後世に残したいものはたくさんあるのではないのでしょうか。
- 魚を採って食べたり、わら細工づくりをしたりといろいろやりましたね。ただ、なにをやるにしても、遊びに使う道具作りからはじめると一層面白いのではないのでしょうか。たとえば魚を採るための竹網やもりを作るなど。既製品を使うよりも、子どもの創作意欲も掻き立てることができると思います。

- 昔の遊びをたくさん集めると、子どもたちの喜ぶようなイベントができそうですね。今の子どもたちばかりでなく、若い親たちも経験していないものが多いようです。親子で楽しめるのではないのでしょうか。
- 昔の遊びなどの特技をお持ちの方が身近にたくさんいると思います。そのような方たちを講師に迎えるのが良いでしょう。
- どんなイベントでも、一回限りで終わってしまうようなものでは、あまり意味がないと思います。それをきっかけに子どもたちにもっと川にふれあい、興味を抱かせることを大事にしたいと思います。
- イベントの募集方法もよく検討したほうが良いでしょう。そもそも、さらら館でこのようなイベントを企画していることも知らない親子も多いと思います。特に、母親よりも父親に多いでしょう。「オヤジの会」を通して、父親にもたくさん参加してもらえると良いと思います。
- 今年度の実施した水のめぐみ体験学校は、募集後すぐに定員に達し、参加できなかった多くの親子がいます。そのような募集にもれた親子にも何かできることはないでしょうか。
- 実感として、今の親子関係は大きく二つに分けられると感じています。ひとつは子どもに過度にべったりの親、もうひとつは子どもを過度に放任する親です。親から放任されている子どもたちを何とかして参加させてあげたいですね。
- 子どもクラブのようなものを組織すれば良いかと思えます。普段忙しくて参加できない親の子どもたちでも気軽に参加できますし、募集にもれた子どもたちも、関わりやすいと思います。
- 水辺で問題になった“よどみ”の解消についても、ひとつのイベントにしたら面白いと思います。水質を浄化したり、川の流れを作ったりなど、こちらからヒントを与えて、子どもたちに考えさせるようなものをやれたら良いですね。

### 地元小学校の総合学習支援について

- 今年度も地元の先生方を対象にした「ぐるっと永山みである記」を実施し、好評を得ています。若い先生も多いことですし、今後も実施したいと考えています。
- 今は昔とは時代も変わり、子どもたちの遊びも大きく変わっています。昔は遊ぶものも施設も少なかったが、今はテレビゲームもあるし、遊興施設もたくさんあります。また、塾に通っている子どもも多い。川で遊ぶことを子どもたちは本当に望んでいるのでしょうか。
- 確かに、これまでは川は危ないから遊んでは

いけない、近づいてはいけないと教えてきた。本当に子どもたちにとって必要なことなのか疑問に感じます。

- 今の子どもたちや、その若い親たちも川に興味がない人が多いと思いますが、そもそも川での経験がないのであって、実体験を通して教えれば、きっと興味を抱いてくれる人も多いでしょう。子どもたちが望まないから与えないのではなく、まず体験してもらうことが大切なのではないのでしょうか。
- 子どもたちはみんな校庭の周辺の地図が頭に入っていて、学校周辺のこおろぎの棲家なども、学年をまたいで口づてに広まったりしています。時代は変わっても、子どもたちの持つエネルギーは変わりません。川での活動を通して、子どもたちにはたくさんの体験してもらいたいと願っています。



旭川市立永山小学校  
元PTA会長の太田氏



旭川開発建設部の  
一条課長補佐



旭川市立永山小学校の  
柏倉校長



旭川市教育委員会  
生涯学習部の清水課長



水辺づくりやさらら館利用、地元小学校の総合学習支援について、様々な意見が交わされました。



水辺づくり箇所を視察しました。